JEAS 環境アセスメント士 紹介

このコーナーは、応募された会員の環境アセスメント士を紹介しています（五十音順に掲載）。

JEAS in Tokyo

環境に関わる仕事の中で

生活環境部門（2005年）
桑原文彦

株式会社数理計画は、1967年に東京都一ツ橋・小学館ビルにおいて、コンピュータサービス会社として設立され、環境に関する問題及び関連した業務活動を開始しております。以来、大気環境、自動車交通、水環境、地球環境、環境アセスメント、海外協力、環境情報など、幅広く業務を行っております。環境アセスメントにおいては、特に地域環境分野の大気汚染を中心に、発電所・工場やプラント建設・空港・道路・港湾など数多くの調査に携わっており、企画、環境調査から予測評価、事後評価まで、信頼性の高いリサーチを行っております。さらに海外においても、国内で培ったノウハウに最新の技術を導入し、大気汚染対策計画などの環境問題の解決・技術移転に積極的に取り組んでおります。

私は、入社以来、発電所アセスメント、港湾整備計画等のアセスメントの仕事に携わっております。さらに近年は、海外の大気汚染対策計画や温室効果ガスの排出削減対策などの業務も担当しております。その中でたとえば、CDM（クリーン開発メカニズム）でも、環境影響について考察するように定められております。このように海外で環境に関する業務を行う際に、必ずといっていいほど、当該国の環境影響評価について調べる必要があります。そのため、海外で環境に関する業務を志す者にとっては、環境アセスメントの知識は必要であると思います。逆に、環境アセスメント士は、もっと積極的に海外で環境に関する仕事をしていくべきだと思います。

環境アセスメント士は、JEAS-CPD制度として継続教育が義務化されています。このような制度の下で、一人一人の環境アセスメント士が、日々技術力の向上を図ることで、環境アセスメント士の認知度や地位の向上が図られることを願い、その一翼を担うべく今後も研鑽に努めていきたいと思います。

（株）数理計画
TEL.03-3259-6262
http://www.sur.co.jp/

JEAS in Fukuoka

環境アセスメントはお任せください！

生活環境部門（2005年）
吉井智史

近年、公共事業の縮小、経済不況などの流れにより、国内の道路・港湾・土地開発事業などの開発事業減少にともない環境アセスメントの数も減少してきました。このうち、生活インフラである一般廃棄物処理施設も例にもれず、事業数は減少しましたが、施設は大規模化し、施設立地に先立つ環境アセスメントの重要性はむしろ高まっています。

一般廃棄物処理施設は、「個人各々が現代社会の安定的な生活を行う上で不可欠なインフラ施設であること」、反面、「身の回りの生活圏から極力存在してほしくない施設であること」という相反する面を併せ持っています。

私は、これら相反する側面を持つ施設の立地に際し、個人の権利と公共の利益を議論する場所の一つとして「環境影響評価」があるものと理解しております。そのため、高度化・細分化する環境問題に対し、個人の環境権と公衆衛生の面の議論の場として、この環境アセスメントが広く、適切に運用されるよう日々努力を払って業務を遂行しております。

私自身、環境影響評価ばかりでなく、廃棄物に関する行政計画や施設整備に関するプラントの計画も実施してきました。これらの知識と経験は、廃棄物処理を取り巻く諸課題、これを解決しようとする各種技術の内容・動向など、環境影響を評価するだけでなく、低減・回避の方策・方針への提言など、広く考察するために重要であると感じております。

このような認識を持ちながら技術研鑽を重ね、認定をいただいた環境アセスメント士にふさわしい技術者として誇れるよう努めてまいりますので、諸課題にお困りの場合は、弊社へ一言ご相談ください。

（株）東和テクノロジー
本社：TEL.082-297-8700
九州支店：TEL.092-432-4311
http://www.technology.co.jp/